

第二期中期計画(1年目) 平成25年度計画の実績について

中期計画・中期目標の分野

H19

第1期中期計画

教育

研究

診療

法人運営

H25

第2期中期計画

追加

地域貢献

追加

まちづくり

H30

I . 地域貢献に関する取組み

地域貢献

1. 医療人の育成（医師関連）
2. 医療人の育成（看護師関連）
3. 研究成果等の地域への還元
4. 健康増進の県民アプローチの充実
5. 断らない救急医療体制の整備
6. 周産期医療体制の強化
7. 他の医療機関との連携強化
8. 奈良県内の医療従事者への助言・指導

地域貢献(医師関連)

医療人の育成 ①

奈良
医大

連携

奈良県

◆ 県立医大医師派遣センター (H26年4月設置)

医学科卒業生の県内卒後臨床研修病院への就職率60%を目指し、県内の医療実態とニーズを踏まえ、公立・公的病院等からの医師派遣要請に対し医師のマッチングを行う。

◆ 県費奨学生配置センター (H25年10月設置)

地域医療を担う奈良県緊急医師確保修学資金及び医師確保修学研修資金の被貸与者のキャリア形成を支援し、かつ、県内の医療実態とニーズを踏まえ、県費奨学生の配置先を決定する。



地域貢献(看護師関連)

医療人の育成 ②

看護実践・キャリア支援センター

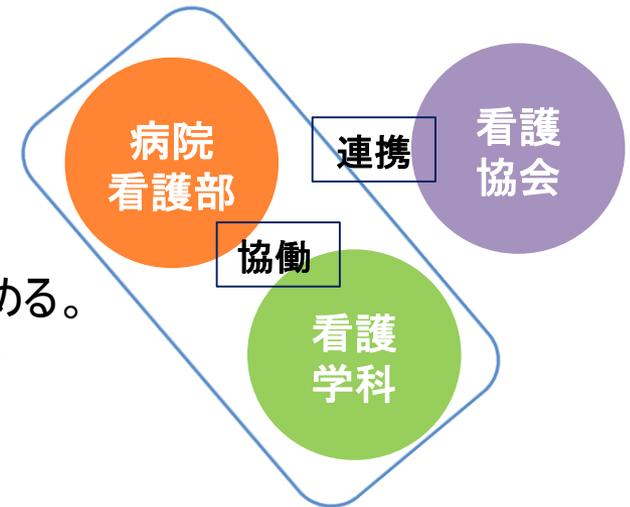
◆看護実践・キャリア支援センター（H26年4月設置）

看護学生の就労支援を行い、県内就職率の向上に努める。
また、スキルスラボの開設により、看護師、看護学生等の
「看護実践力」の向上を図る。

◆看護学科学生に対する奨学金制度の創設を検討

◆大学院にCNS(Certified Nurse Specialist: 専門看護師)コースの設置の検討

国の動向を踏まえ、設置を含めキャリア支援の方法を検討していく。



地域貢献(研究関連①)

研究成果等の地域への還元

研究推進戦略本部

(H25年6月設置)

- ◆本学における研究活動の一層の活性化と地域社会の更なる発展に寄与することを目的し、研究に関係する諸施策を総合的・中長期的(＝戦略的)に展開させることを目的とする。

大和漢方医学薬学センター

(H26年1月設置)

- ◆漢方の教育・研究、人材育成、地域医療者への研修・普及を行うことを目的とする。

「リビングサイエンス(生活を基点にした科学)」への取組強化

- ◆「住居医学講座」、「スポーツ医学講座(寄附講座)」等をより発展させていく。
→奈良医大を中心とした「医学を基礎としたまちづくり」の実現へ。

地域貢献(研究関連②)

◆漢方医学薬学に関する教育・研究・診療活動の充実並びに県民の健康増進及び地域の活性化を推進するため、大和漢方医学薬学センターを設置。



←2013.3.7
キックオフセミナーの様子



→左から 渡辺賢治副センター長
(特任教授)、三谷和男特任教授

◆「MBT構想」について、早稲田大学との共同研究成果として医学と都市計画学による地域コミュニティの新しいビジョンを示した「医学を基礎とするまちづくり」を刊行した。



←「医学を基礎とするまちづくり Medicine-based Town」(文化とまちづくり叢書)

細井 裕司 後藤 春彦
編著, 水曜社, 2014.

地域貢献（研究関連③）

健康増進の県民アプローチの充実

県民健康増進支援センター

（H26年3月設置）

・・・市町村や県が実施する健康増進事業に協力するとともに、予防医学や健康づくりの適切な情報や研究成果を提供することにより地域住民のセルフケアを支援することを目的とする。

- ◆ 地域包括ケアシステムの構築に向けた指導・支援
- ◆ 保健師などへの研修会の実施
- ◆ 調査・研究への指導
- ◆ 公開講座の開催

さらに・・・

「奈良県健康長寿コホートスタディ(1万人のコホート研究)」の計画の検討を開始した。

※奈良県健康長寿コホートスタディ: 県下全域を対象とした健康長寿を維持させる要因を多面的に研究する疫学調査。

地域貢献(診療関連①)

断らない救急医療体制の整備

- ◆重篤な救急患者を含めた院内受入体制の再構築を実施
- ◆奈良県救急医療管制システム(e-MATCH)の稼働開始(H25年4月～)
- ◆ERプロジェクトの運用を開始(院内)
 - …(総合診療科、診療各科、救命救急センターが協力・連携)
- ◆県・中南和地域での病院間連携体制の協議を開始
- ◆救命救急センター(HCU)に高度救命医療を担う看護師を11名増員
 - …救命救急センター(HCU)における4:1看護体制の実現を目指す
- ◆ドクターカーへの看護師の同乗を開始(同乗は平均 7.1件/月)
 - …看護師が同乗することで、「初療室」に近い環境となる。
 - また、「プレホスピタルケア」から看護師が関わることで、よりきめ細やかな看護が可能。

※初療室： 病院で救急の患者を最初に診療する部屋のこと。

※プレホスピタルケア： 急病人などを病院に運び込む前に(主に救急車内で)行う応急手当て。病院前救護。

地域貢献(診療関連②)

周産期医療体制の強化

・・・ハイリスク妊婦に対する医療や高度な新生児医療等の周産期医療を担う
総合周産期母子医療センターの円滑な運営

◆周産期医療に関わる施設間ネットワークによる「母体・新生児搬送コーディネート機能」の充実

- H26年4月より、休日・夜間における母体搬送コーディネーター事業の実施を決定。
- 搬送コーディネートを行う。産科医，小児科医，新生児科医の増員。

	産婦人科	小児科	NICU
H25.4.1時点	6	4	1
H26.4.1時点	10	6	4

◆産婦人科・小児科に進む県費奨学生への卒後キャリアパスの提示を検討 (地域医療学講座 + 県費奨学生配置センター)

◆周産期医療従事者等への研修会, 講習会を継続的に開催

地域貢献(診療関連③)

他の医療機関との連携強化

「地域完結型医療」の構築を目指す

◆紹介、逆紹介の推進

- ・初診予約制度未活用の医療機関への啓発活動、ポスター掲示等の啓発活動
→初診紹介予約の増加(対前年比 491人増)により紹介率向上
- ・H25年5月より「連携登録医制度」を実施(335医療機関 343人(地域の医師・歯科医師)が登録)
→逆紹介率の向上

奈良県立医科大学附属病院
(特定機能病院)
地域医療連携室

逆紹介

紹介

地域の医療機関
(かかりつけ医)

◆地域連携パスの充実

「県脳卒中パス」(県統一パスに移行)、「乳がんパス」、「大腸がんパス」の運用を開始。

◆中核的な緩和ケアセンターの設置・運営

附属病院 緩和ケアセンターの更なる充実を図り、奈良県の緩和ケア提供体制の中核となる。
→ 充実策の一環として、緩和ケアをテーマにした県民公開講座「がんタウンミーティング」を開催。また、在宅ケア支援診療所リストを作成しHPへ掲載。

◆基幹型認知症疾患医療センターの設置

(H25.8.1 県から「基幹型」の指定を受け、開設)
11月6日より本格稼働。奈良県の認知症疾患に対する保健医療水準の向上を図り、認知症医療の連携の拠点としての役割を果たす。

地域貢献(診療関連④)

県内医療人への助言・指導

- ・・・県・市町村医師会や県看護協会と協働し、最新技術や情報を学べる研修等の企画・実施および医療情報の発信(メーリングリスト等の活用)を通じて、県内医療人のレベルアップに貢献する。

◆地域の医療従事者等を対象にした研修会等の開催状況

【 H25年度実績 】

- 地域の医療従事者等を対象にした研修会 : 57件
医療連携の課題や脳卒中パスの現状について学ぶ機会を提供。
在宅医療、退院支援・調整の現状について実務担当者間の
課題共有を図る機会を提供。
- 院外にオープンな病院主催の研修会 : 25件
院内向けとして開催している研修会等へ地域の医療従事者が自由に
参加する形式のもの。
- 病院独自で行う医療情報の発信 : 44件

◆臨床技能習得のための「スキルラボ」の利用開始 (H25年12月 学内利用開始)

- 今後は学内利用だけでなく、スキルラボの地域へのオープン化を目指す

Ⅱ．教育に関する取組み

教育

1. リベラルアーツ教育の実践
医の心をもった医療人の育成
医療経営に関する教育の確保
2. 教育内容の評価
3. 老朽・狭隘施設への対策
(V. まちづくり参照)

教育 ①

リベラルアーツ教育の実践、医の心をもった医療人の育成

一般教育検討委員会の設置（新カリキュラム編成案の作成（H27年度導入予定））

◆リベラルアーツ教育の充実

- ・幅広い教養や倫理観を備えた医療人の育成
- ・「奈良学」の開設：奈良を愛し奈良に貢献する医療人の育成
- ・一般教育を医学の準備教育と捉え、基礎医学との融合を図る

◆一般教育の実施期間の短縮

- ・グローバルスタンダードによる医学教育の見直し（ECFMG（国際基準）への対応）

◆英語教育の充実

- ・ネイティブの医師による医療英語や英語によるプレゼン等

◆学生へのアンケート調査による授業満足度等の実態把握

医療経営に関する教育の確保

「医療経営学」の設置（大学院医学研究科修士課程）

（H27年度入学生の募集を開始予定）

教育②

教育内容の評価

双方向の授業評価システムの構築

- ◆学生からの「授業アンケート」(医・看)
- ◆教員による「授業自己評価」(医・看)



講義・実習・研修内容の
改善と充実

FD研修会の実施

※FD (Faculty Development) : 教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称。

- ・H25年度は計4回の研修会を開催。
- ・H26年度以降も、現場のニーズも踏まえ、医学科、看護学科教員を対象とした研修会(講演会)を複数回計画している。

教員の表彰制度

- ・現時点では、適正な評価ルールと表彰制度の内容の検討段階であるが、H26年度以降、具体的(FD等を活用する等)な制度づくりを推進していく。

Ⅲ. 研究に関する取組み

研究

1. 研究の適切な成果評価
2. 有能な研究者の獲得
3. 健康・予防医療等研究範囲の拡大
4. 研究環境の改善
(V. まちづくり参照)

研究①

研究推進戦略本部の設置

本学の研究
活動の活性化、
研究活動・成果
による地域社会
への貢献

大和漢方
医学薬学センター

リビングサイエンス
(住居医学, 認知症への
対応, スポーツ医学 etc.)

女性研究者
支援センター

etc.

・・・「研究活動」に係る基本方針等を検討(→決定)すると共に、産学官連携研究や大型プロジェクト等を一元管理。

研究評価委員会

研究推進戦略本部での検討結果等を踏まえ、
研究に関する第三者(外部有識者)評価を行う

研究②

有能な研究者の獲得

◆研究医養成コースの充実

研究医枠2年次編入を9月から4月へ変更し、4月から基礎医学の履修を開始。スポーツ医学講座(寄附講座)も研究室配属対象とした。

◆特別共同研究助成事業(学内共同プロジェクト)

(H25: 2件を採択(1件:500万円))

◆若手研究者研究助成事業(若手研究者への独自の助成制度)

(H25: 4件を採択(1件:50万円))

◆研究助教制度を創設(H26年2月)

◆女性研究者の研究継続・復職支援の充実



支援制度等の充実により、高度な知識・能力と意欲を持つ研究人材を育成し、大学全体の研究競争力を高める。

研究③

健康・予防医療等への研究範囲の拡大

県民健康増進支援センター

地域住民のセルフケア等を支援する目的で設置を決定。
今後、専任教員(特任講師)を配置予定で、公開講座や
橿原市健康サポーター養成講座の開催等も予定している。

MBT(Medicine -Based Town)構想

早稲田大学との共同研究成果として「医学を基礎とするまちづくり」を
刊行し、医学と都市計画学による地域コミュニティの新しいビジョンを示した。
H26年度には国の大型プロジェクトへの申請を予定している(H26.5 採択決定)。

奈良県健康長寿コホースタディ(1万人のコホート研究)

現時点では構想段階であるが、MBT構想と共に県民の健康増進に
関する研究を推進していく。

IV. 診療に関する取組み

診療

1. 医師・看護師等の離職防止と人材確保
2. がん拠点病院としての機能の充実
3. 治療成績の一層の向上
4. 患者満足の一層の向上
5. 老朽・狭隘施設への対策
(V. まちづくり参照)

医師・看護師等の離職防止と人材確保



仕事と生活を両立できる職場環境の実現

- ・ワークライフバランス推進委員会の設置(H25.6)
- ・全教職員を対象としたアンケートの実施(回収率 : 81.8%)

ワークライフバランスの推進

- ・短時間正規労働制度の見直し
- ・計画年休制度による有給休暇の取得促進
- ・育休の取得率向上(男性職員の取得率向上)



子育て支援の更なる拡充

- ・学内保育園の定員増を決定
- ・病児保育の導入等、保育制度の充実を検討

がん拠点病院としての機能の充実①

都道府県がん診療拠点病院(奈良医大)

高度で専門的な医療の提供

- ◆ 外来化学療法室の処置台を増設
(14台→26台)
- ◆ 最新の放射線治療装置(リニアック2台)
が稼働開始
- ◆ がん専門医の育成・確保,
がん医療に携わる人材の養成
- ◆ 専門研修によるがん相談専門員の
相談スキルを向上

がん登録

- ◆ 「院内がん登録」業務を確実に遂行
し、2,461件(2012年)の症例を登録
(国立がん研究センターに報告)
- ◆ 「院内がん登録」統計(2012年症例)
を附属病院HPにて公開

チーム医療体制の充実・強化

- ◆ 医師, 看護師, 薬剤師, 臨床心理士,
ソーシャルワーカー, リハビリテー
ション専門職等が、院内外の
「緩和ケア研修会」へ継続的に参加
→ より質の高い緩和ケアを提供
- ◆ 診療・治療方針を「チーム」で検討
するカンサーボードの体制を整備

緩和ケア提供体制の充実

- ◆ 「緩和ケア」の普及と啓発
- ◆ 在宅ケア支援診療所の情報を
HP上で提供

がん拠点病院としての機能の充実②

最新式 リニアック(放射線治療装置)

最先端のがん治療システム搭載
リニアック トゥルービーム

複雑な形状の腫瘍にもこれまで以上に
高い精度で照射が可能、
また呼吸による動きのある部位にも
効率的な照射が可能。

※H25年11月稼働開始
(国内初導入)



Trilogy with ExacTrac



リニアック トリロジー



第1回在宅緩和ケア地域連携研修会
(「カフェちゅうわ」2014.10.27)



ワールドカフェスタイルで和やかに研修

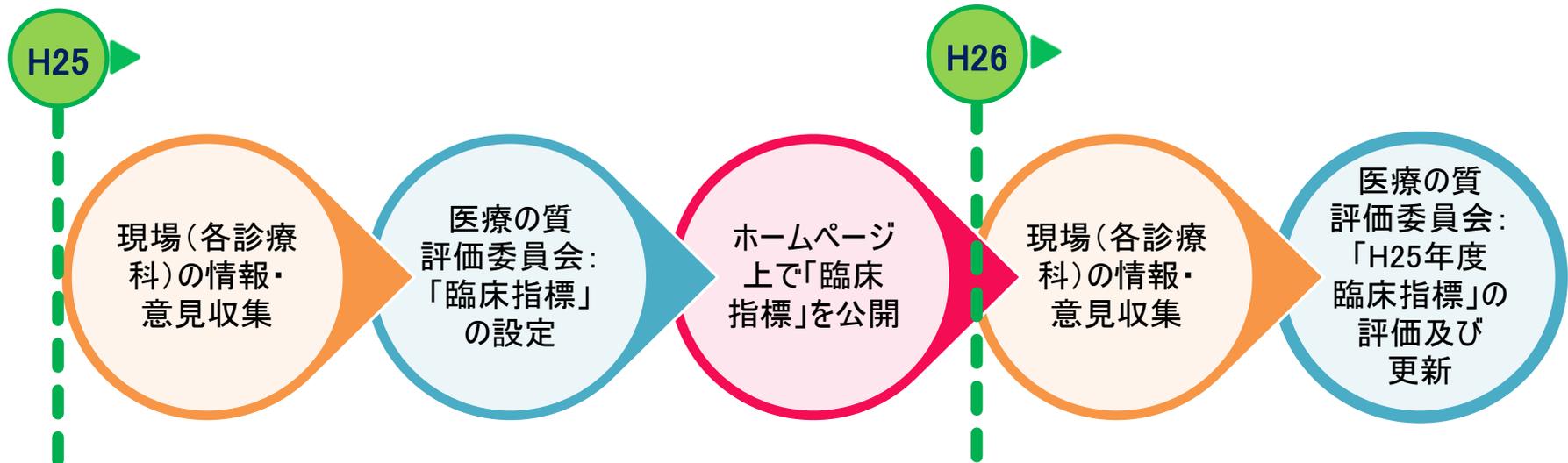
▲ がん診療に携わる病院、診療所、訪問看護ステーションの医師、看護師、薬剤師などさまざまな職種の方が病院と在宅医との連携や質の高いケアの提供方法などを中心に意見交換を行った。

治療成績の一層の向上

臨床指標 (Clinical Indicator: クリニカルインディケーター):

医療の質を具体的な数値として示し、客観的に評価するために用いられる「ものさし」。

- …奈良医大版 臨床指標の公開の取組みを通して、より質の高い医療の提供と患者さんにとって分かりやすい(関心の高い医療分野の)医療情報の提供を目指す。



…奈良医大では、

- ①「病院全体についての指標」、②「DPCにおける指標」、③「診療に関する指標」、④「医療サービスに関する指標」を公開している。

今後、**毎年更新**を行っていく。

※DPC (Diagnosis Procedure Combination): 患者分類としての診断群分類。これに基づいて1日当たり定額報酬を算定する。臨床指標においては、DPCを係数として示し、この係数が高い病院の方が「より高度な医療機能を有する」等の目安として活用することができる。

患者満足の一層の向上①

ニーズの把握

- ・ 声のポストや相談による患者意見の収集
- ・ 外来・入院患者満足度調査の実施
- ・ 相談記録データベースの活用



ホスピタリティマインドの向上

- ・ 職員コミュニケーション研修の体系を検討
- ・ 職員ホスピタリティマインド醸成研修の実施について検討 (H26年度研修実施予定)
- ・ 待ち時間改善検討WGの設置 (1/31, 2/27 ワーキング開催)



アメニティの充実

- ・ 案内サイン、多目的トイレ、正面玄関の改修、院内コンビニの新設(工事中) etc.
- ・ 病院ボランティアの増員、清掃・警備等の包括的業務委託 etc.

これらの取り組みにより、

- ◆ 入院・外来の診察内容に総合的に満足している割合【H25: 90%以上 (H25目標値: 90%以上)】
- ◆ 診療の待ち時間が長いと感じる患者の割合【H25: 33.4% (H25目標値: 35%以下)】

患者満足の一層の向上②

利用者の視点にたったアメニティ整備



案内サイン
色によるゾーニング、ナンバリング
による誘導案内、UD(ユニバー
サルデザイン)の文字で情報を
シンプルに伝達。



ハード面
屋外サイン、案内
サイン、床壁張替、
EV改修、正面玄
関庇の改修、院内
コンビニの新設
(工事中) etc



病院玄関庇の改修
従来より庇を高くし、圧迫感を
軽減。明るく開放的な玄関へ。

ソフト面
病院ボランティアの
増員、清掃・警備
等の包括的委託
による業務の
徹底 etc.



エレベーター改修
EVホールに木調パネルと
間接照明を配し、アメニ
ティを向上。



廊下の改修例(2F)
床壁の張替(木調)と
間接照明、絵画を見やすく
掲示(アメニティに一助)。



病院ボランティア「ラポール」の皆さん
活動内容は、患者さんの案内・誘導、診
察申込書の記入代筆等多岐にわたる。

老朽・狭隘施設への対策

E棟((仮称)中央手術棟):

- ・・・2013年10月末に「I期」部分が完成し、11月下旬から「II期」建設地にある既存施設の解体に着手し、2014年2月末には解体を完了。3月より順次「II期」工事に着手している。「I期」工事完了により、「地下1F 放射線治療部門」、「1F 腫瘍センター」、「2F 中央臨床検査部」がオープン。



▲ I期工事が完了したE棟



テープカットの様子



(H28年3月 全体竣工予定)

V. まちづくりに関する取組み

まちづくり

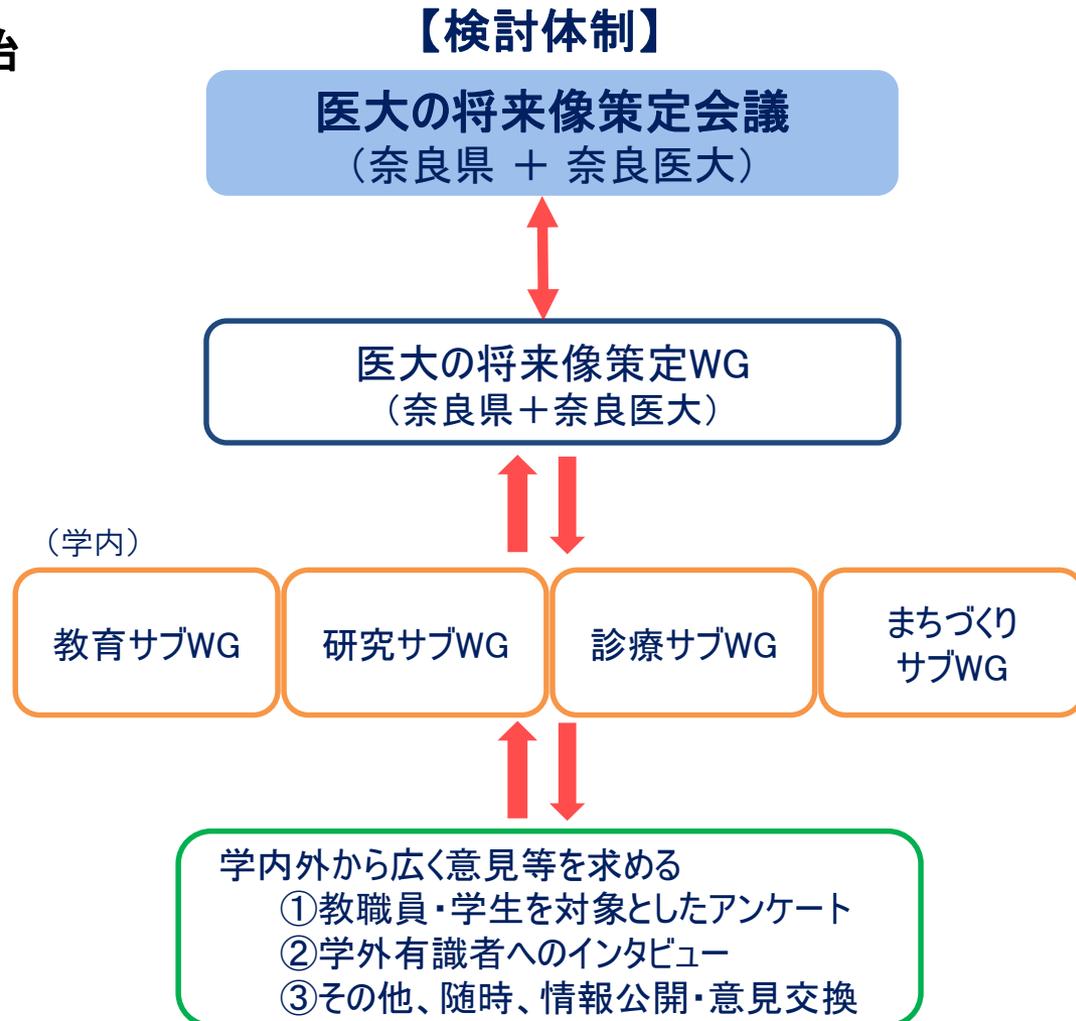
1. 教育・研究部門の円滑な移転と新キャンパス整備
2. 地域に開かれたキャンパスづくり
3. 教育・研究部門等移転後の跡地活用
4. 移転を契機とした研究分野での地域貢献
(I . 地域貢献, III . 研究 参照)
5. 健康づくり・予防医療等への貢献
(I . 地域貢献, III . 研究 参照)

教育・研究部門の円滑な移転と新キャンパス整備 地域に開かれたキャンパスづくり

検討体制を整備し以下の検討を開始

◆本学の将来像(理念)の構築
および、施設整備の基本的な
考え方を併せて検討。

◆キャンパス整備に伴い、全職員
を対象としたアンケートや
インタビューをはじめ、学内の
合意形成を図る。



教育・研究部門等移転後の跡地活用

現キャンパスの整備検討について以下の取組みを実施

検討体制の強化

- ◆ 検討体制を構築(前ページ参照)
- ◆ 建替基本計画の策定業務に係る委託業者の選定

用地の調査

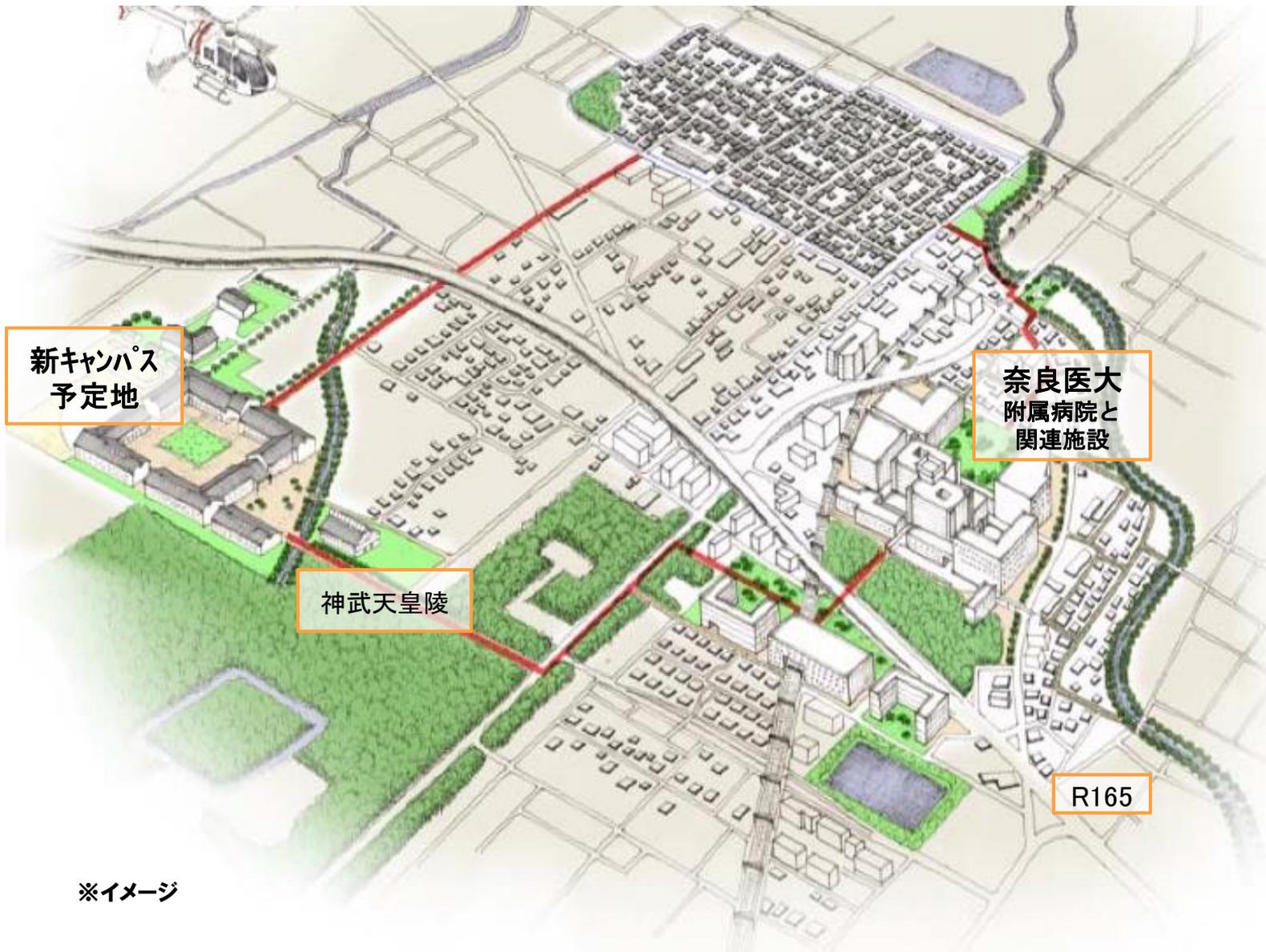
- ◆ 基本計画の実施に向け敷地に関する測量調査を開始

施設の現況等の把握

- ◆ 老朽・狭隘化施設に関して各研究室にアンケートを実施
- ◆ 新外来棟に関して各診療科の教授等にヒアリングを実施

先行事例の把握

- ◆ 先進地視察を実施
(国公立の7大学医学部・医科大学)



※イメージ

VI 法人運営に関する取組み

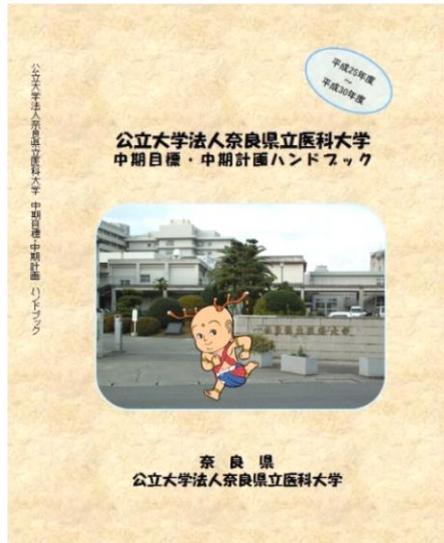
法人運営

1. ガバナンス体制の充実強化
2. ワークライフバランスの充実強化
3. 同窓会・歴代卒業生との連携
4. 繰越欠損金の解消

ガバナンス体制の充実強化

中期目標・計画の職員への周知

- ◆ハンドブックを作成し、全職員に配付。



- ◆学内各種会議、説明会等で周知を図った。
- ◆大学移転やワークライフバランスに関する全職員対象のアンケートを実施。

中期計画・年度計画の進捗管理

- ◆平成25年度計画(全67項目)を進捗管理するため、項目ごと進捗状況整理カードを作成。

- ◆項目責任者(各役員)による執行役員会議を開催。県の担当審議官及び関係課長等も出席し、進捗状況等の情報共有を図った。

- ◆中長期計画推進委員会においては、H25.4.1～H25.12.31 までの取組状況について確認し、着実な実施に努めた。

- ◆中期目標・中期計画を含む法人の取組みについての記事(理事長へのインタビュー形式)を新聞に掲載。

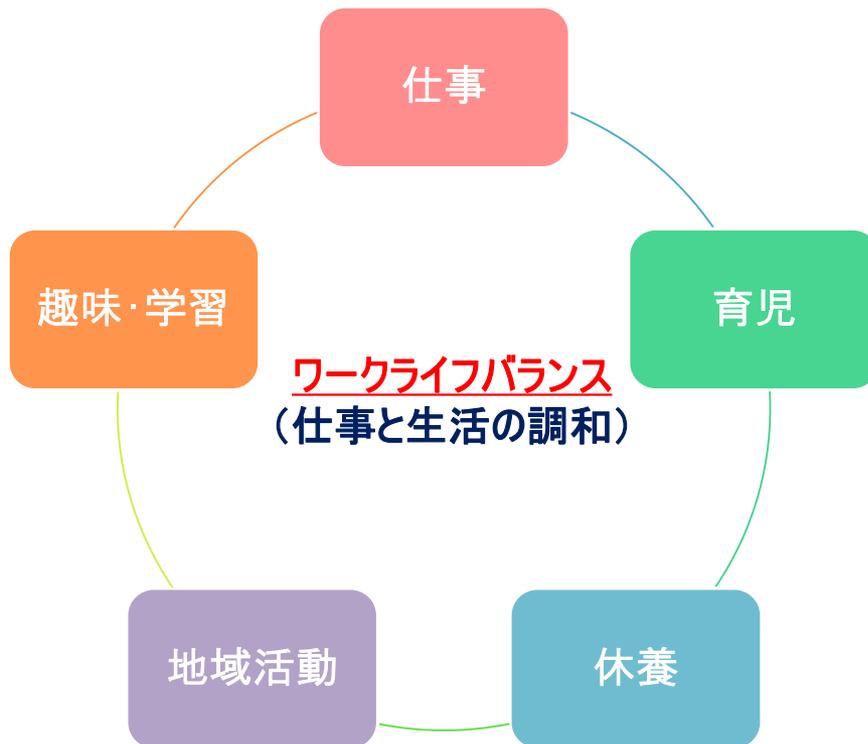
取組の発信

ワークライフバランスの充実強化

ワークライフバランス検討委員会

(H25年6月設置)

- …ワークライフバランスに関する職員アンケートを実施
→職員の意識、希望等について把握・分析



※イメージ

ワークライフバランス推進のための メニュー作り

- ◆短時間正規労働制度
…H26年度中に就業規則を見直し予定。
- ◆計画年休
…「有給休暇」を取得し易い、
取得できる環境づくり。
- ◆育休取得
…男性職員の取得率向上も目指す。

etc.

今後もメニューを充実していく。

同窓会・歴代卒業生との連携

卒業生アンケート調査を実施：
意見の把握および結果の分析



教育・研究
環境の
整備・充実

卒業生との意見交換会を開催：
教育全般にわたる意見を聴取



カリキュラム編
成の改善

医学科・看護学科
同窓会との連携・交流

同窓会理事会と関係課で検討会を開催：
寄附金募集、70周年記念事業実施体制
について合意



母校愛の育成
と協力意識の
向上

看護実践・キャリア支援センターと
看護学科同窓会の連携



看護学科
同窓会の
組織強化

繰越欠損金の解消

法人経営検討会議（H25年9月設置）

（構成メンバー：総務経営担当理事、病院長、関係部長、看護部長）

目的

- ◆決算見通し、会計上の課題の抽出・分析、長期収支見通しについて、さらなる精査、収支改善策の検討等を進める。

検討内容

- ◆病床稼働率、医薬診療材料比率の目標値設定などを踏まえたH26予算の検討を実施。
- ◆ジェネリック医薬品や安価な診療材料への積極的な切り替え、院外処方への検討など、今後の経営改善策の検討を実施。

附属病院…参考指標

- ◆H25.3月末病床稼働率 85.3% (H24:84.9%)
- ◆H25.2月末平均在院日数 13.02日 (H24:12.74日)
- ◆H25.3月末診療収入の確保
（入外行為別計昨年度比 約9億円増収対予算比 約6億円増収）
- ◆医薬・診療材料比率 H25:43.4% (H24:42.6%)
- ◆未収金の抑制 (H25.2月末連帯保証人への督促数42件、回収額約110万円)：2月末未収金残高(昨年度同時期比)約3千万減少

平成26年度に向けて

新たに設置されたセンター, 委員会等 (H25~H26)

◆ 県立医大医師派遣センター

(H26年4月)

◆ 認知症疾患医療センター (基幹型)

(H25年8月, 県指定)

◆ 県費奨学生配置センター

(H25年10月)

◆ 一般教育検討委員会 (H25年5月)

◆ 看護実践・キャリア支援センター

(H26年4月)

◆ 医大の将来像策定会議 (H25年11月)

◆ 研究推進戦略本部 (H25年6月)

◆ ワークライフバランス検討委員会 (H25年6月)

◆ 研究評価委員会 (H26年1月)

◆ 医療の質評価委員会 (H25年7月)

◆ 大和漢方医学薬学センター

(H26年1月)

◆ ホスピタリティ向上委員会 (H25年8月)

◆ 県民健康増進支援センター

(H26年3月)

◆ 法人経営検討会議 (H25年9月)

H25年度

- ◆中期計画実行のための体制整備を完了

H26年度

- ◆これらを本格的に運営し、より具体的な成果を出していくことが求められる。
- ◆H25年度業務実績に関する県評価委員会による評価結果で課題とされた項目への取組強化。

【25年度、課題となった項目】

- ・奈良のことを学ぶ授業科目（「奈良学」）の設置
- ・子育て支援拡充のための学内保育園の定員増
- ・資金投入と人員配置による経費増と収入増を踏まえた中長期的な計画の策定